

私を育てた
あの時代、あの出会い

第9回

地道に真摯に全力で 生徒に向き合う大切さを教わった

東京都昭島市立清泉中学校校長 小谷野茂美 KOYANO SHIGEMI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、小谷野校長が語る。

生徒の「心を耕す」
指導を目指したい

新採の頃は、全国的に中学校が荒れていた時期でした。私は1年目から担任を任せられ、毎日懸命に生徒と向き合いました。校内で迷惑行為をする生徒を戒め、夜には学校を休んだ生徒の家庭訪問をし、生徒の声に耳を傾けるよう心掛けました。

2校目も生徒指導の厳しい学校でしたが、授業や学級経営を一通りこなせるようになっていた私は1つの疑問を抱き始めました。夜、問題行動が多かった生徒の家庭訪問をした

時、生徒が帰り際に「今ならAは起きてるよ」と不登校気味にあった生徒の名前をぼそっと告げたのです。

さっきまで私に注意され悪態をついていたのに、一方では友だちを思いやる心を持っている。一人ひとり良い子たちなのに、なぜ学校では反抗的な態度ばかり取るのか。生徒の心の内を私は測りかねていました。

そうした時に出会ったのが、渡辺晴季校長です。学ぶ環境を整えることが大切と言われ、窓から物が捨てられることが日常茶飯事だった中で、窓の下にある花壇に自ら花を植えて世話をされていました。温和だ



こやの・しげみ 専門教科は家庭科。八王子市立第二中学校に新採で赴任後、青梅市立西中学校、東京都教職員研修センター研究部研究課長、東久留米市教育委員会参事などを経て、2010年度から現職。

1975 (昭和50)
八王子市立第二中学校に
新採で赴任

1979 (昭和54)
青梅市立西中学校に
赴任。赴任6年目に
渡辺晴季校長が着任。
3年間を共に過ごす。
この頃、教育相談や
心理学の勉強を始める

1990 (平成2)
東京都多摩教育事務所
指導課指導主事に着任

2002 (平成14)
東京都教職員研修センター
研修部企画課
統括指導主事に着任

2005 (平成17)
立川市立立川第一中学校に
校長として赴任

2007 (平成19)
東久留米市教育委員会
参事に着任

2010 (平成22)
昭島市立清泉中学校に
赴任

*プロフィールは取材時 (2012年3月) のものです

「生徒の全ては分からない。 だからこそ心に寄り添いたい」



けれども、子どもとのかかわりの中で豊かな心をつむいでいこうという強い信念を持っていたのだと思います。単に禁止するのではなく、生徒の心に訴えられるような指導をしなくては——校長が率先して動く姿を見て、担任たちにも頑張って学校を変えようという機運が生まれました。

校長の姿は生徒の心も動かすようになりまし。ある時、生徒が「校長先生が花壇で草むしりをしている姿を見て、物を捨てられなかった」

と言ったのです。私は「やれば出来るじゃない」と生徒を褒めました。が、内心、衝撃を受けていました。好き勝手ばかりしている生徒に、その後ろ姿だけで大切なことに気付かせた。渡辺校長が日頃から話されていた「心を耕す」とはこういうことなのだ、私は渡辺校長が地道に諦めずに何事にも取り組む意味をやっと理解したのです。

もっともっと子どもの心と向き合っていきたい。私は教育相談や心

理学についての本を読み、大学の講座に参加するなどして独自に勉強を始めたのです。

ぶれない芯を持って 生徒にも先生にも向き合う

30代前半の頃、3年間担任をした女子生徒がいました。学校を休みがちで、素行の良くない男子生徒との付き合いもうわさされていました。私は1年生の頃から頻繁に家庭訪問をし、生徒に語り掛けていました。そうして3年生の半ばを過ぎた頃、生徒は家庭の事情で悩んでいることを打ち明け始めたのです。それは私にはどうすることも出来ない問題で、無力さをわびました。でも、生徒は解決など無理だと分かった上で、私が何年も向き合ってきたことで信頼し、心の内を話してくれたのです。

残念ながら、教師が理解したり解決したり出来ない複雑な問題を抱えている生徒もいます。だからこそ、したり顔で指導をせず、生徒に寄り添い、実直に諦めずに向き合うことが大切だと思うのです。

本校に赴任した時、校内は整っていないとは言えない状態でした。私は



若手教師の発案で、学年・男女混合チームも参加できる球技大会を開催。小谷野先生の名前を冠した「SHIGEMI CUP」とし、盛り上がった。新入生に配布する学校紹介の冊子も若手教師が内容を考えて作成

ホウキとチリトリを持ち、朝、校内を回ることから始めました。次に、先生や生徒と一緒に教室や廊下の壁などを直し、学ぶ環境を整えました。そして、校則違反は徹底して許さないことを、先生方に呼び掛けました。駄目なものは駄目というぶれない姿勢を貫くことが、生徒からの信頼を得ることにつながるからです。

先生方には、生徒にとって良いと思うことはどんどん実践してもらっています。失敗もありますが、間違いは次に生かせばいいのです。先生たちに任せることが、私の役割だと思っています。

放課後、授業にあまり出ない生徒が校長室に来て話し込むことがしばしばあります。問題行動を起こすような生徒も、教師に聴いてほしいこと、訴えたいことがあるのです。校長になった今も生徒と向き合い、心を耕し続けていきたいと思えます。